

廊下で気軽にすれ違うこともなかなかありません。同じ建物でも階が違えば月に一回程度しか合わないなんてこともざらにあります。教官やポスドクの方々との交流も有意義だと思いますが、やはり自分と同じ学生という視点で話し合える仲間というのは本当に大切であるということを皮肉にも、大学を離れ研究所という場にきて初めて痛感することになりました。こうした環境だからこそ、研究室の壁を越え学生セミナーで知り合い、共に学位取得を志す同じ総研大生同士での交流をいっそう大切にしていかなければならないと感じます。

学生の視点からみた分子研の利点・欠点をみてきましたが、そうした部分も含め各自が学位取得の場所として選んだのが分子研です。今の自分自身にこの分子研という環境が好きか嫌いかと問いかけると、一概にどちらかと答えることはできません。しかしそうした様々な点を踏まえて、分子研は今の

自分にとって非常に魅力的な場であることは間違いありません。この一年を通して、研究面では様々な物性測定を経験させて頂くことができました。これまであまり意識していなかった視点から研究をみることを教わりました。そしてバイオ系出身の自分にとっては、これまで接することのなかった分野の学生と知り合うことができました。もちろんマイナスな部分もあげるときりがないですが、それと同じくらい自分にとってプラスの部分を得られた刺激のある、なによりこの一年は魅力的な時間であったと感じます。今年も国際的学術誌に論文を投稿することができ、国際学会に参加する機会を与えて頂きました。こうした結果は、去年一年間多くの点で至らなかった私を指導してくださった指導教員である藤井浩先生や研究室のスタッフの方々、そして同じ総研大生の励ましがあつたからこそだと思います。D2年は自分にとって学位を取得していく上で勝負のときです。

この一年、後悔のないようがんばっていきたいと思います。そしてこの分子研という場を巣立っていく頃には、良くも悪くもいろいろな想いを含め分子研で学位を取得したことに胸を張れるよう、今をしっかりと歩み、研究者としてこの分子研で成長していきたいと思っています。



自転車が盗まれたのを機に車を購入。助手席は友人からプレゼントされたぬいぐるみの特等席??

## E V E N T R E P O R T

### 学生セミナー

総合研究大学院大学物理科学研究科構造分子科学専攻 博士課程2年 岩佐 豪

平成19年度 総合研究大学院大学の学生セミナーが2007年4月5日の入学式後から翌日の6日にかけて行われました。学生セミナーは、前年度の新入生の中から選出された学生を中心として企画され、年毎に担当学生の個性が反映された内容となります。

今年の学生セミナーは、今後の研究生活において体験するだろう「発心」「挫折」「希望」の3つを柱に組み立てられました。

「発心」として甘利 俊一先生に「私の発心：数理工学そして理論脳科学を目指して」、辻 惟雄先生に「奇想の発

見—私の研究歴回想」というタイトルで、それぞれの研究人生のきっかけとなる部分に焦点を当てた御講演をしていただきました。

「挫折」シミュレーションでは、新入生に加えて教員、そして御講演者方にもご参加いただき、グループディスカッションにて、挫折とその対策やその後を含んだ仮想人生を作り上げてもらい、皆の前で発表していただきました。

「希望」では諏訪 元先生による「人類の進化の謎を追って」というタイトルでご講演頂き、引き続いてグループごとの討論を行っていただきました。

担当学生らにより作成された、発心・挫折・希望に即して、ニュートンが重力を発見するまでの過程を現代的に描き直したドラマも放映され、そして新入生全員を含むスタッフロールにて本年の学生セミナーの終幕となりました。

学生セミナーの準備において他分野の方々との交流を持つ事が出来、有意義な経験になりました。



Takeshi Iwasa

北海道大学大学院理学研究科修士課程を修了後、平成18年に総合研究大学院大学構造分子科学専攻入学、現在博士課程2年。理論科学研究系分子基礎理論第二研究部門信定グループで、空間構造を取り入れた光学応答の研究に取り組んでいます。